

20	一富士二鷹三茄子	ケ
19	一難去ってまた一難	ア
18	一事が万事	サ
17	急がば回れ	ウ
16	いずれ菖蒲か杜若	コ
15	医者の不養生	イ
14	石橋をたたいて渡る	シ
13	石の上にも三年	エ
12	案ずるより産むが易し	チ
11	雨降って地固まる	ス
10	虻蜂取らず	オ
9	あばたもえくぼ	テ
8	後は野となれ山となれ	ソ
7	暑さ寒さも彼岸まで	キ
6	あちら立てればこちらが立たぬ	ツ
5	当たるも八卦当たらぬも八卦	セ
4	頭の上の蠅を追え	カ
3	頭隠して尻隠さず	タ
2	秋茄子は嫁に食わずな	ク
1	会いは別れの始め	ト

解答

ト	テ	ツ	チ	タ	ソ	セ	ス	シ	サ	コ	ケ	ク	キ	カ	オ	エ	ウ	イ	ア	記号
出会ひの後には必ず別れがあるので、会うことは分かれることの始まりでもある。人生のおなしさを表した言葉。	好きになると、相手の欠点までもが長所に見えてしまうということ。	ものごとを、二つの立場の両方を満足させられるようにするのは難しい、ということ。	やる前からあれこれと心配していた物事も、実際にやってみると、思っていたよりまたやすいものだということ。	悪事や欠点をすべて隠し通したとおもっていても、実際にはその一部しか隠せていないことのたとえ。	目先の問題さえ片付けば、あとはどうなってもかまわない。なるようになれ、という無責任な態度。	占いは当たることも外れることもあるので、結果を気にしすぎてはいけないということ。	争いごとや悪いことが起こった後には、かえって物事がうまくいくこと。	用心を重ねて、物事を慎重に行うことのたとえ。	ある一つのことを見れば、ほかのすべてのことも推察できる、ということ。	どちらも優れていて、優劣がつけられないこと。	初夢に見ると縁起がいいとされるものを、順に並べた言葉。	秋のなすは美味しくてもったいないから、(または、体を冷やす効果があるから)嫁に食べさせてはいけない。	夏の暑さや冬の寒さは、彼岸の頃には和らいで、過ぎしやすくなるということ。	人の心配をするよりも、まずは自分のことをしっかりしなさい、ということ。人の世話を焼きたがる人などに使う。	二つの物を両方手に入れようとして、どちらも取り逃すこと。欲張りすぎて失敗すること。	つらくて大変なことでも、辛抱して続ければいつかは成功する。	危険な近道を通るより、遠回りでも確実な道を通る方が早く目的地に着く。	人には立派なことを言っておきながら、自分は、それを実践していかないことのたとえ。	次から次へと災難がやってくること。	

解答

記号

21	一寸先は闇	コ
22	一寸の虫にも五分の魂	サ
23	言わぬが花	チ
24	魚心あれば水心	ア
25	牛にひかれて善光寺参り	イ
26	氏より育ち	テ
27	嘘から出た誠	キ
28	嘘つきは泥棒の始まり	エ
29	嘘も方便	カ
30	鵜の真似をする鳥	シ
31	馬の耳に念仏	ウ
32	瓜の蔓に茄子はならぬ	ス
33	噂をすれば影	セ
34	江戸の敵を長崎で討つ	ケ
35	海老で鯛を釣る	ソ
36	縁の下の方持ち	ト
37	驕る平家は久しからず	タ
38	小田原評定	ク
39	鬼に金棒	ツ
40	鬼の居ぬ間に洗濯	オ

ア	相手が好意を示すのならば、自分もそれに応じて、好意をもって対応しよう、ということ。
イ	思わぬ偶然や他人の誘いで、良い結果を得たり、良いほうへと導かれること。
ウ	人の意見や忠告を聞き流してしまい、何とも思わないことのたとえ。
エ	平気度うそをつくようになると、やがては盗みも平気でするようになる。だから嘘はついてはいけないということ。
オ	怖い人やうるさく注意してくる人がいない間に、のんびりくつろぐこと。
カ	物事を順調に進めるためには、時と場合によっては嘘をつくことも必要だということ。
キ	嘘で言ったはずのことが、たまたま実現してしまうこと。
ケ	意見が分かれていて、なかなかまとまらない相談や会議。意外なところで、昔の恨みを晴らすことのたとえ。
コ	将来のことは、ちょっとさきのことでも全くわからないということ。
サ	小さくて弱い者にも相応の意地があるのだから、どんな相手であってもあなどってはいけない、ということ。
シ	カラスが鵜を真似て魚を捕ろうとしても、うまくいかな。身の程をわきまえず、人の真似をして失敗すること。
ス	平凡な親からは平凡な子供しか生まれないことのたとえ。
セ	誰かの噂をしていると、その本人が現れることがあるということ。
ソ	少しの元手や努力で、大きな利益を得ることのたとえ。
タ	思いついてわがままに振る舞うものは、いつまでも栄えていることはできずに、勢力も衰えて減びるということ。
チ	口に出して言わない方が、味があるということ。また口に出すと差し障るので言わないほうがいい。
ツ	もともと強い存在が、何かを得ることでさらに強力になることのたとえ。
テ	家柄の良さなどよりも育った環境のほうが、その人の人間的に大きく影響し、大切だということ。
ト	人に知られないところで他人のために努力や苦勞をすること。また、そのような人。

41	鬼の霍乱	ケ
42	鬼の目にも涙	ツ
43	帯に短したすきに長し	ソ
44	溺れる者は藁をもつかむ	ス
45	思い立ったが吉日	ウ
46	親の心子知らず	テ
47	蛙の子は蛙	シ
48	蛙の面に水	ク
49	風が吹けば桶屋が儲かる	タ
50	風邪は万病の因	キ
51	火中の栗を拾う	エ
52	勝って兜の緒を締めよ	コ
53	河童の川流れ	オ
54	勝てば官軍	チ
55	金は天下の回りもの	サ
56	壁に耳あり障子に目あり	カ
57	果報は寝て待て	ト
58	亀の甲より年の功	セ
59	鴨が葱を背負ってくる	イ
60	枯れ木も山の賑わい	ア

解答

記号	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ	コ	サ	シ	ス	セ	ソ	タ	チ	ツ	テ	ト
	つまらない、あるいは役に立たない物でも、無いよりはあったほうがましだということのたとえ。	鴨が葱を背負ってきたら、すぐに鴨鍋ができるように、都合が重なり、さらに都合がいいことのたとえ。	物事を始めようと決心したら、始める日を選ばずに、すぐに始めたほうが良いということ。	自分の利益にならないのに、あえて他人のために危険なことをするたとえ。	何かの名人であっても、油断したりして、時には失敗するということ。	隠し事はとにかく漏れやすいものだから、注意したほうがいいという戒め。	風邪を引くと体が弱り、他の病気にかかりやすくなるので、軽く見てはいけないということ。	どんな目にあっても、何も感じていないかのように平気でいる様子。	普段は丈夫で病気にかかりそうにない人が、珍しく病気になること。	たとえ物事が思い通りにうまくいっても、気を緩めてはいけないということ。	お金は人から人へと渡っていくので、今は貧しくてもいつかは回ってきたり、入ってきたお金は出ていく物だ。	平凡な親からは平凡な子どもしか生まれないということ。子どもの才能などは、結局は親に似るものだということ。	非常に困ったり苦しんだりしている人が、頼りになりそうにないものにもすがろうとすることのたとえ。	年長者が身に付けた長年の経験や豊富な知識は大事にするべきだということ。	物事が中途半端で何にも使えず、役に立たないこと。	ある出来事が巡り巡って思わぬ結果を生じること。また、当てにならないことに期待をすること。	最終的に勝ったほうが理屈抜きで正義となり、負けたほうがすべて悪いということになるのが世の常だということ。	無慈悲で鬼のような人でも、時には同情したり、かわいそうに思ったりして涙をながすことのたとえ。	親の子どもへの愛情を知らないで、子どもは好き勝手にふるまうものだということ。	運は人の力ではどうすることもできないので、焦らずに待っていた方が幸運はやってくるものだということ。

解答

記号

80	弘法筆を選ばず	オ
79	弘法にも筆の誤り	セ
78	郷に入っては郷に従え	エ
77	孝行のしたい時分に親は無し	シ
76	後悔先に立たず	ウ
75	光陰矢のごとし	ツ
74	喧嘩両成敗	ア
73	犬猿の仲	イ
72	芸は身を助ける	ケ
71	君子危うきに近寄らず	サ
70	苦しい時の神頼み	コ
69	口は災いの元	タ
68	腐っても鯛	ク
67	木を見て森を見ず	ソ
66	清水の舞台から飛び降りる	ト
65	九死に一生を得る	チ
64	雉も鳴かずに撃たれまい	ス
63	聞くは一時の恥、聞かぬは一生の恥	キ
62	聞いて極楽見て地獄	カ
61	かわいい子には旅をさせよ	テ

ト	すことのたとえ。
テ	うまくいくかはわからないことでも、思い切って決断を下すことのたとえ。
ツ	甘やかして育てるよりも、世の中でつらくて苦しい体験をさせたほうが、愛する子どものためになるということ。
チ	月日がたつのがとても速いことのたとえ。また、時間を無駄にしてはいけないという戒め。
タ	まず助からないだろうという危険な状態から何とか助かること。
ソ	自らが話したことが災いを招くこともあるので、余計な発言は慎んだ方がよい。
セ	どんなに優れた人物でも、失敗することはあるというたとえ。
ス	物事の些細な事ばかり注意していると全体を見失うということ。
シ	自らが話したことが災いを招くこともあるので、余計な発言は慎んだ方がよい。
サ	まず助からないだろうという危険な状態から何とか助かること。
コ	信じていない神様や、あまり付き合いたくない人などに、困った時だけ頼ろうとすること。
ケ	立派な人は、常に慎重に行動して、軽はずみなことはしないものなので、危険なことには初めから近寄らない。
ク	親のありがたみが解る頃には、すでに亡くなっているものだ。だから、親が元気なうちに孝行したほうがよい。
キ	聞いたがために撃たれた雉のように、必要のないことをした結果、災難を招いてしまうこと。
カ	どんなに優れた人物でも、失敗することはあるというたとえ。
オ	物事の些細な事ばかり注意していると全体を見失うということ。
エ	自らが話したことが災いを招くこともあるので、余計な発言は慎んだ方がよい。
ウ	まず助からないだろうという危険な状態から何とか助かること。
イ	自らが話したことが災いを招くこともあるので、余計な発言は慎んだ方がよい。
ア	まず助からないだろうという危険な状態から何とか助かること。

解答

記号

100	泰山鳴動して鼠一匹	ス
99	袖振り合うも多生の縁	セ
98	善は急げ	シ
97	梅檀は双葉より芳し	ア
96	急いては事を仕損じる	エ
95	住めば都	チ
94	好きこそものの上手なれ	テ
93	知らぬが仏	ツ
92	初心忘るべからず	サ
91	朱に交われれば赤くなる	オ
90	失敗は成功の基	ト
89	親しき仲にも礼儀あり	カ
88	地獄の沙汰も金次第	ウ
87	三人寄れば文殊の知恵	ケ
86	山椒は小粒でもぴりりと辛い	ク
85	触らぬ神に祟りなし	イ
84	猿も木から落ちる	タ
83	先んずれば人を制す	ソ
82	転ばぬ先の杖	キ
81	紺屋の白袴	コ

ト	テ	ツ	チ	タ	ソ	セ	ス	シ	サ	コ	ケ	ク	キ	カ	オ	エ	ウ	イ	ア
失敗したとしても、反省して、失敗の原因を改善すれば、成功へとつながる。やがては成功するものだということ。	好きなことには自然とやる気がでてくるから、上手になるということ。	平気でいられるということ。	知ったら腹が立つようなことでも、知らないままでいれば平気ということ。	不便な場所でも長く住めば慣れて、良いと思えるようになるということ。	どんなに優れた人物でも、失敗することはあるというたとえ。	些細なことも何らかの因縁によって結ばれているものだ。	人より先に行動すれば、有利になって相手を制することができるということ。	前触れが大きい割に、大したことのない結果に終わること。	良いと思ったことは、ためらわずに急いでやるべきだ。	物事に慣れて急げたりすることのないように、それを始めたときの心構えや決心は忘れずにいるべきだということ。	自分の技能は他人にばかり使っていて、自分の事には使われていないことのたとえ。	一人ではよい考えが浮かばない凡人でも、三人集まって考えれば、すばらしい知恵が浮かんでくるということ。	体は小さくても、意志が強くて才能もあり、あなどることができない者のたとえ。	失敗しないように、あらかじめ十分に用心しておくこと。また、そのような用心が大切だというたとえ。	どんなに親しい仲でも、遠慮がなくなると喧嘩の原因になるから、それなりの礼儀を守って付き合うべきだ。	焦って事に当たると失敗しやすい。	世の中は、お金さえあればなんでも自由にできるということ。	余計な災難にあわないために、余計なことには手出ししない方がいい。	大人になって大成するような人は、子どもの時から並外れて優れているということ。

解答

記号

120	灯台下暗し とうだいもとくら	サ
119	天は二物を与えず てん にぶつ あた	カ
118	出る杭は打たれる でる くい う	ソ
117	鉄は熱いうちに打て てつ あつ う	ウ
116	敵は本能寺にあり てき ほんのうじ	イ
115	鶴は千年、亀は万年 つる せんねん 亀 まんねん	セ
114	角を矯めて牛を殺す つの た うし ころ	タ
113	月とすっぽん つき	ク
112	沈黙は金、雄弁は銀 ちんもく きん ゆうべん ぎん	テ
111	塵も積もれば山となる ちり つつ やま	ケ
110	提灯に釣り鐘 ちようちん づり かね	キ
109	短気は損気 たんき せんき	ス
108	玉磨かざれば光なし たまが ひかり	ア
107	旅は道連れ世は情け たび みちづ よ なさ	オ
106	旅の恥はかき捨て たび はじ す	ツ
105	棚からぼた餅 たなもち	シ
104	蓼食う虫も好き好き たでく むし す す	チ
103	立つ鳥跡を濁さず た とりあと にご	コ
102	立っているものは親でも使え た おや つか	ト
101	ただより高いものはない ただ たか	エ

ト	急ぎの用事があるときには、たとえ親であったとしても、そばで立っている人に頼むべきだ。
テ	うまく話すことも重要だが、それ以上に沈黙していることの方が価値があることもある。
ツ	旅先には自分を知る者もないので、恥ずかしい行いも平気でしてしまう。
チ	辛い夢を好む虫もいるように、人の好き嫌いはさまざまだということ。
タ	少しの欠点を直そうとしてやりすぎてしまい、かえって全体をだめにしてしまうこと。
ソ	才能があつて抜きんでている人や、でしゃばっている人は、嫉妬されたり、憎まれたりするということ。
セ	寿命が長くて、めでたいことのたとえ。
ス	短気を起こすと、いらいらしたり、他人と衝突したりして、損をすることになる。
シ	予想もしていなかった幸運が舞い込むことのたとえ。
サ	身近なことほど案外気づきにくいものだ。
コ	立ち去るときの後始末は、見苦しくないようにきちんとするべきだということ。
ケ	小さなことも継続すれば膨大なものとなる。だから小さなこともおろそかにするべきではない。
ク	二つの物が、形は似ていても、比べられないくらいに差があることのたとえ。
キ	形は似ているが実際は違いすぎて比較にならないこと。つまり合いがとれないこと。
カ	天は一人の人間に、たくさんの長所や才能を与えることはないということ。
オ	一人で旅するよりも同行者がいたほうが心強いように、世の中でも互いに助け合い生きることが大切だということ。
エ	ただで物をもらうと、お礼にお金がかかったり、その人に頼みごとをされたりと、かえって高くつくということ。
ウ	① 考え方の柔軟な若いうちに鍛えておいた方が良い。② 情熱を持って事に当たれる時期を逃してはいけない。
イ	本当の目的が全く別のところにあることのたとえ。
ア	才能や素質があつても努力なくして真価を発揮することはできない。

140	習うより慣れる	シ
139	生兵法は大怪我の元	イ
138	怠け者の節句働き	タ
137	七転び八起き	エ
136	情けは人のためならず	サ
135	なくて七癖	チ
134	泣く子と地頭には勝てぬ	カ
133	泣きっ面に蜂	ク
132	長いものには巻かれろ	ウ
131	鳶に油揚げをさらわれる	ア
130	鳶が鷹を生む	ケ
129	飛んで火にいる夏の虫	ソ
128	どんぐりの背比べ	ツ
127	取らぬ狸の皮算用	セ
126	隣の花は赤い	ス
125	年寄りの冷や水	キ
124	所変われば品変わる	コ
123	時は金なり	テ
122	遠い親戚より近くの他人	ト
121	豆腐にかすがい	オ

ト	いざというとき頼りになるのは、遠くにいる親戚ではなく、日ごろ付き合ひのある近所の他人だということ。
テ	時間はお金と同じように貴重なものだから、無駄に使ってはいけない。
ツ	どれも似たようなものばかりで、大した違いがないこと。
チ	どんな人でも、多かれ少なかれ、何か癖をもっているということ。
タ	普段怠けている者ほど他人が休んでいるときに限って忙しそうにするものだ。
ソ	自分から進んで危険を冒し、災難を招くこと。
セ	まだ決まっていらないことを当てにして、計画を立てたり、利益を考えたりすること。
ス	他人の物は自分のものよりもよく見えて、うらやましく思う。
シ	物事は、人や本から教わるよりも、体験として実際に経験した方が身につく。
サ	人に親切にすると、巡り巡って自分にいい報いがかえってくるので、自分のためにもなるということ。
コ	その土地によって言葉や習慣は違うものだということ。
ケ	平凡な親が、才能のある優れた子どもを産むことのたとえ。
ク	不運なことの上に、さらに不運なことが続て起こること。
キ	年寄りが、年齢に合わない無理や無茶をすることのたとえ。
カ	理屈の通じない者や権力者などには、いくらこちらが正しくても勝てないから、従うしかないということ。
オ	何の効果も反応もないことのたとえ。
エ	何回失敗してもくじけずに、勇気を出して立ち上がること。
ウ	権力のある人や目上の人には、逆らうよりも従ったほうが得だということ。
イ	中途半端な知識・技術はかえって失敗のもとである。
ア	大切なもの、または自分のものになると思ったものを、いきなり横からうばわれること。

解答

記号

160	159	158	157	156	155	154	153	152	151	150	149	148	147	146	145	144	143	142	141
人は見かけによらぬもの	人のふり見てわがふり直せ	人の口には戸が立てられない	人のうわさも七十五日	必要は発明の母	腹八分目に医者いらす	早起きは三文の得	花より団子	暖簾に腕押し	喉元過ぎれば熱さを忘れる	能ある鷹は爪を隠す	猫に小判	猫に鯉節	濡れ手で粟	糠に釘	二兎を追うものは一兎をも得ず	逃げるが勝ち	憎まれっ子世にはばかる	逃がした魚は大きい	二階から目薬
カ	オ	テ	セ	ソ	ア	ケ	チ	ク	ト	サ	コ	ウ	タ	エ	イ	ツ	キ	ス	シ

ト	テ	ツ	チ	タ	ソ	セ	ス	シ	サ	コ	ケ	ク	キ	カ	オ	エ	ウ	イ	ア
苦しう辛い出来事も、過ぎ去ってしまったえばその苦しさを忘れてしまう。	世間でうわさ話が広がることを防ぐことはできないということ。	時には、戦わずに逃げる方が、結果的に得になるということ。	風流を楽しむより実益を取る方が良いというたとえ。見かけよりも実質を取ることに。	ほとんど苦労もせずに大もうけすることのたとえ。	必要なものを作ろうと工夫することから、発明が生まれるということ。	世間は忘れやすくどんな噂も長続きはしない。	もう少しで手に入る、というところで逃がしたものは、実際よりも立派だったように思えるということ。	思うようにならなくてもどかしいこと。全く、効き目のないこと。	実力や才能のある者ほど、それをおやみに見せびらかそうとはしない。	価値のわからない者に貴重な品を与えても、何の役にも立たないことのたとえ。	早起きをする、健康に良かったり、仕事がかどつたりと、なにかと得をする。	少しも手ごたえがないこと。	人から嫌われるような人に限って、世間では幅を利かせているものだ。	人の本当の性格や実力は、外から見ただけではわからないということ。	他人の行いを見て自分の行いを反省し、悪いところはなおしなさいということ。	手ごたえがなく効果もないこと。	油断できない状況。危険な状態。	欲張って一度に二つのことをしようとしても、結局どちらもうまくいかないということ。	食事を食べ過ぎずに控えめにしておけば、健康を保てるということ。

解答

記号

180	負けるが勝ち	コ
179	まかぬ種は生えぬ	チ
178	骨折り損のくたびれもうけ	キ
177	仏の顔も三度	ト
176	仏作って魂入れず	ケ
175	ペンは剣よりも強し	エ
174	蛇ににらまれた蛙	ソ
173	下手の横好き	ス
172	下手の考え休むに似たり	シ
171	下手な鉄砲も数撃ちや当たる	イ
170	豚に真珠	ウ
169	笛吹けども踊らず	ツ
168	夫婦喧嘩は犬も食わない	テ
167	貧乏暇なし	サ
166	貧すれば鈍する	タ
165	ひょうたんから駒が出る	オ
164	百害あって一利なし	セ
163	火のない所に煙は立たぬ	カ
162	人を見たら泥棒と思え	ア
161	人を呪わば穴二つ	ク

ト	後には怒りだすということ。
テ	どんなに温厚な人でも、何回もひどいことをされると、最後に
ツ	準備を整えて、さかんに誘っているのに、誰もそれに応じ
チ	結果があるからには必ず原因がある。努力なくしてよい結
タ	貧しくなると頭も鈍くなる。
ソ	強敵や苦手なものなどの前で、恐ろしさから身がすくみ、
セ	害になることばかりあって、利益になるような良いことが
ス	下手なくせに、そのことをするのが好きで熱中すること。
シ	良い考えが浮かばないのに長い時間考えるのは、時間の無
サ	貧乏な人は生活に追われ、暇がないということ。
コ	争わず、あえて勝ちを譲ることで、一時的には負けていて
ケ	苦労して完成させた物事に、一番大事なところが抜けてい
ク	他人に害を与えようとすれば、やがて自分もその報いをう
キ	苦労したのに成果が出ず、徒労に終わってしまうこと。
カ	噂をされるからには、必ず何かの原因、事実があるだろう
オ	思いがけないところから意外なものが出る。冗談が現実と
エ	優れた文章は世の人々を動かし、武力よりも強い力を持つ
ウ	価値のわからない人に貴重な品を与えても、何の役にも立
イ	何度もあれこれ試してみれば、偶然うまくいくこともある
ア	他人を簡単に信用してはいけない。まずは用心しろという

200	瘦せの大食い	ス
199	安物買いの銭失い	タ
198	門前の小僧習わぬ経を読む	ク
197	桃栗三年柿八年	セ
196	物言えば唇寒し秋の風	テ
195	元の木阿弥	サ
194	餅は餅屋	エ
193	目は口ほどにものを言う	ア
192	目の上のこぶ	ウ
191	目くそ鼻くそを笑う	カ
190	無理が通れば道理引つ込む	オ
189	昔取った杵柄	キ
188	身を捨ててこそ浮かぶ瀬もあれ	チ
187	実るほど頭の下がる稲穂かな	ツ
186	三つ子の魂百まで	シ
185	見ざる聞かざる言わざる	ト
184	身から出たさび	コ
183	ミイラ取りがミイラになる	イ
182	丸い卵も切りようで四角	ソ
181	待てば海路の日和あり	ケ

ト	自分に都合の悪いことや他人の欠点は、見ないふり、聞かないふりをして、余計なことは言わないようにすること。
テ	余計な発言で災いを招く。人の悪口を言うと、何となく後味の悪い気持ちになる。
ツ	心の狭い人ほど偉そうにふるまい、優れた人物はむしろ控えめで、素直な態度でいること。
チ	捨てる身の覚悟で物事にあたって、はじめて成し遂げることができるということ。
タ	安物は品質の悪いものや使いにくいものが多く、すぐだめになるので、結局は損をしてしまうということ。
ソ	喧嘩になっってしまうこともあるということ。
セ	物事を成し遂げるまでには時間がかかるものだということ。
ス	痩せているくせによく食べる人のこと。また、痩せている人には、案外大食いな人が多いということ。
シ	幼いころの性格は、一生変わらないということ。
サ	努力や苦労が無駄になってしまうこと。
コ	自分がしたことが原因で災難にあうこと。
ケ	悪い状況でも、あせらずに待っていれば、そのうち良いことがあるということ。
ク	常日頃接していることは自然と身につくものだ。
キ	昔身に付けた技量のこと。また、それが年を取ってからも衰えないこと。
カ	自分も似たような欠点をもっていることに気づかず、他人の欠点を笑うことのたとえ。
オ	理屈に反したことが世の中で通用するようになれば、逆に理屈の通った正義は行われなくなるということ。
エ	物事は専門家に任せるのが一番である。
ウ	自分よりも立場が上で、何かとじやまで目障りな人のたとえ。
イ	相手を説得しようとしたのにいつの間にか相手に同調してしまふ。
ア	感情のこもった目つきは、言葉に出すのと同じくらい気持ちを表すものだ。

解答

記号

220	和をもつて貴しとなす	ツ
219	破れ鍋に綴じ蓋	ケ
218	笑う門には福来る	エ
217	渡る世間に鬼はない	イ
216	若い時の苦勞は買つてもせよ	キ
215	論より証拠	ト
214	論語読みの論語知らず	テ
213	ローマは一日にしてならず	コ
212	労多くして功少なし	ソ
211	瑠璃も玻璃も照らせば光る	ス
210	類は友を呼ぶ	シ
209	楽は苦の種、苦は楽の種	タ
208	楽あれば苦あり	オ
207	来年のことを言えば鬼が笑う	ウ
206	弱り目に祟り目	カ
205	寄らば大樹の陰	チ
204	よしの髄から天井をのぞく	ア
203	病は氣から	ク
202	藪をつついて蛇を出す	セ
201	柳の下にいつもどじょうはいない	サ

ト	議論するよりも証拠を示したほうが、物事をすっきり解決することができる。
テ	書物をよく読んでいても、本質を理解していない。また、書物から得た知識があっても、実行が伴わない。
ツ	他の人と仲よくやっていくことが、何よりも大切だということ。
チ	頼りにする相手を選ぶときには、できるだけ力のある人を選んだ方がいいということ。
タ	楽をしていると後で苦勞することになり、逆に、苦勞をしておくと後で楽ができるということ。
ソ	苦勞が多いわりに効果が少なく、報われないこと。
セ	余計なことをして、かえって損をしたり、災難にあったりする。
ス	才能や素質のある人は、どこにいても目立つということ。
シ	気の合う人や似ている人は、自然に集まって仲間になるものだということ。
サ	偶然うまくいった時と同じやり方をしても、いつもうまくいくとは限らないということ。
コ	長い時間と労力をかけて初めて、大きなことを成し遂げることができるということ。
ケ	どんな人にも、その人にぴったり合う相手がいるということ。また、そのような人と一緒になればうまくいく。
ク	病氣は気持ち次第で、良くも悪くもなるということ。
キ	若い時に苦勞しておくと、その経験が後で役に立つ。だから若い時には進んで苦勞したほうが良いということ。
カ	不運なことや災難が、何度も重なって起こることのたとえ。
オ	世の中は楽しいことはかりではないので、楽しいことの後には、必ず苦しいことが来るということ。
エ	笑いが絶えない家は、自然と幸せが訪れる。また、どんなに辛い時もくじけずに笑っていれば、幸せがやってくる。
ウ	将来のことはわからないので、あれこれ言っても仕方ないというたとえ。
イ	世間には、思いやりのない冷たい人だけでなく、困った時に助けてくれる親切な人もいるということ。
ア	自分の狭い知識や経験だけで、広い世界や大きな問題についてを判断しようとする。